

地域のみんなで考えた
「平成の大絵図」を作成
 第4回「骨寺村荘園の里 夢語りの会」



荘園遺跡と共存する
 ほ場整備を検討するための
県営の調査事業が
 行われます。

「骨寺通信」

第6号

本寺地区地域づくり推進協議会会報
 事務局（会長宅）
 一関市殿美町字若井原
 （電話）略

遺跡と共存するほ場整備

骨寺村荘園遺跡は、中世の「絵図」に描かれた荘園の風景が現在まで残されていることから、ユネスコ世界遺産の候補地として平成十八年度の推薦に向け手続きが進められています。しかし、農村景観を保存していくためには、農地の荒廃を防ぎ、継続的な営農が営まれるための生産基盤の整備が必要不可欠であり、遺跡と共存する「保全型ほ場整備」の実施に向け検討していくこととなります。

調査への同意率 90%

八月中旬から、協議会役員が一丸となり八区、九区を中心とした地域での「保全型ほ場整備」の検討のための調査実施について、同意取得の取り組みを行いました。その結果九月末時点で、関係する資格者八十三名中七十五名の同意が集まり、調査実施への同意率が九〇%となりました。

調査の内容

事業名	田園自然環境保全整備調査事業
予算	600万円(県・市9月補正予算)
調査内容	一定地域の確定 現況測量、状況調査 既存地形図の修正 従前地調査 概略保全型整備計画図作成 概算事業費の算定
期間	平成16年10月上旬から 17年3月下旬まで
事業主体	岩手県 (一関地方振興局 農村整備室)

調査の内容

今回の調査は、岩手県が事業主体となり、田園景観の保全と生産条件の改善が可能な農地整備の手法を検討すること、概略保全型ほ場整備計画図の作成を行います。遺跡と共存する農地に詳しい岩手大学農学部広田純一教授に、地元意向の反映と文化財側との調整を図った案の作成をお願いいたします。また、現況測量などは専門機関に委託する予定です。

内容については、九月十六日に開催された協議会第五回全体会で農村整備室より説明された内容について掲載しております。詳細は後日改めて、関係機関よりご連絡する予定です。

去る八月四日（水）午後七時より、生活改善センターにおいて、第四回の「骨寺村荘園の里 夢語りの会」が、地元三十八名、講師支援機関を含め約七十名の参加のもと開催されました。最終回となった今回は、はじめに前回までに現地調査を行って整理した荘園遺跡の改善策について、遺跡ごとに特に重要なものを選び出し、また、これまでみんなで出し合った約四百件に及ぶ地域おこしアイデアの中から「これは」と思うものを選定し、それらを大きな本寺地区の地図に写真と一緒に書き込みました。最後にキヤッチフレーズ、古代ロマンに満ち溢れた骨寺村」を佐藤勲さんの筆で書き入れ、豊四枚以上の大きさの「平成の大絵図」を作成しました。

全四回を通して、延べ三百五十人余りの多くのみなさんのご参加、ご協力により、将来の地域おこしの基本となる構想の案の一つのかたちにまとめることが出来ました。しかし、これはまだ「絵に描いたもち」でありアイデアを地域で実現するため、今後みなさんの参加をいただき、取り組みを続けていきますので、ご協力をよろしくお願ひします。